

病虫害発生予察特殊報 第 2 号

病 名 : ブルーベリーバルデンシア葉枯病 (仮称)

病原菌名 : *Valdensia heterodoxa*

1. 発生確認経過

南信地方のブルーベリー生産ほ場において、葉に輪紋状の葉枯れを生じ、早期落葉する病害が発生した。平成 20 年 6 月、県南信農業試験場で原因究明を行ったところ、*Valdensia heterodoxa* による「バルデンシア葉枯病 (仮称)」であることが判明した。また、北信地方のブルーベリーほ場の一部にも同様の症状がみられ、当所で調査したところ同病と判明した。

本病は平成 15 年に岩手県において発生し、平成 19 年に *Valdensia* 属菌による病害であることが明らかにされ、現在のところ、バルデンシア葉枯病 (仮称) として提案されている。

2. 病徴及び発生生態

- (1) 葉に、はじめ褐色の斑点を生じ、直径 3 cm にも達する輪紋状の大型病斑を形成する (写真 1, 2)。後に葉枯れ症状を示し、落葉する。病斑の中心部には黒褐色の突起物が確認される (写真 3)。
- (2) 5 月中旬頃、地際部の新梢葉に初発生した後、6 月中旬には樹幹内の新梢葉に伝染する。
- (3) 伝染環は明らかでないが、前年発生樹では翌年も発生が多い。
- (4) 本病原菌の生育適温は 15~20℃であり、比較的低温を好む。
- (5) 本病原菌は多犯性であり、国外ではラズベリー、コケモモ等の林床植物や高山植物で報告されている。
- (6) 現在のところ、「アーリーブルー」、「ブルーレイ」、「ジャージー」、「スパルタン」などのハイブッシュブルーベリー品種で本病の発生が確認されている。

3. 診断法

- (1) ルーペ等を用いて病斑を観察する。病斑の中心部には黒褐色の突起物 (葉に感染した分生子) が認められる (写真 3)。また、新鮮な病斑上には約 0.5mm の星型の分生子が数個認められる (写真 4)。
- (2) 本病と類似した病害として斑点病がある。斑点病は直径数 mm~1 cm 程度と小型で同心円上の円形の病斑を形成する点で本病と区別できる。また、斑点病は病斑周囲が赤変することが多い。

4. 防除対策

- (1) 現在のところ、本病に対する登録農薬はない。
- (2) 罹病葉や被害落葉は圃場外に持ち出し適正に処分する。
- (3) 地際部付近の新梢葉から発生が始まるので、発生ほ場では、5~6 月に地際付近の不用な新梢を数回剪除する。剪除した新梢は適正に処分する。



写真1 新梢葉の葉枯れ症状



写真2 葉の病斑



写真3 病斑中心にみられる黒褐色の突起物
(葉に感染した分生子)

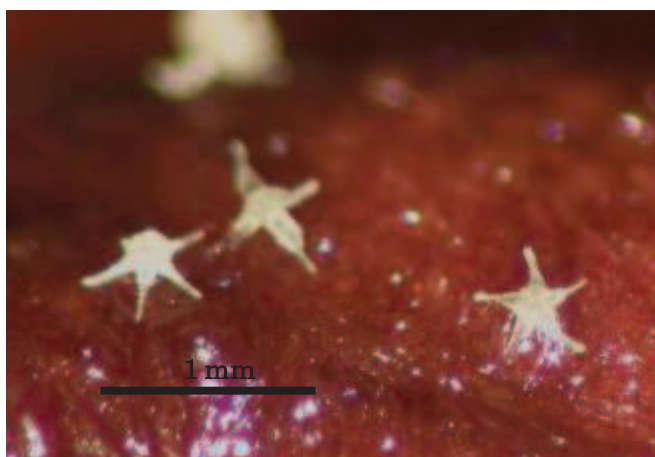


写真4 病斑上にみられる星型の分生子
(付属器を開いた状態)



写真5 分生子の顕微鏡写真
(付属器を閉じた飛散時～付着時の形態)